

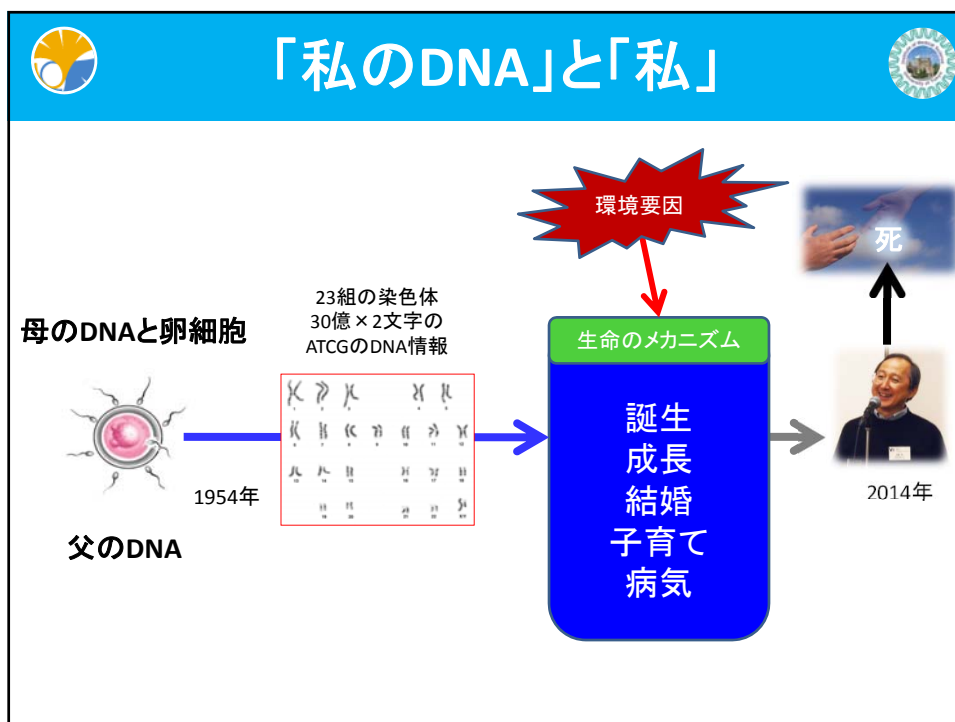


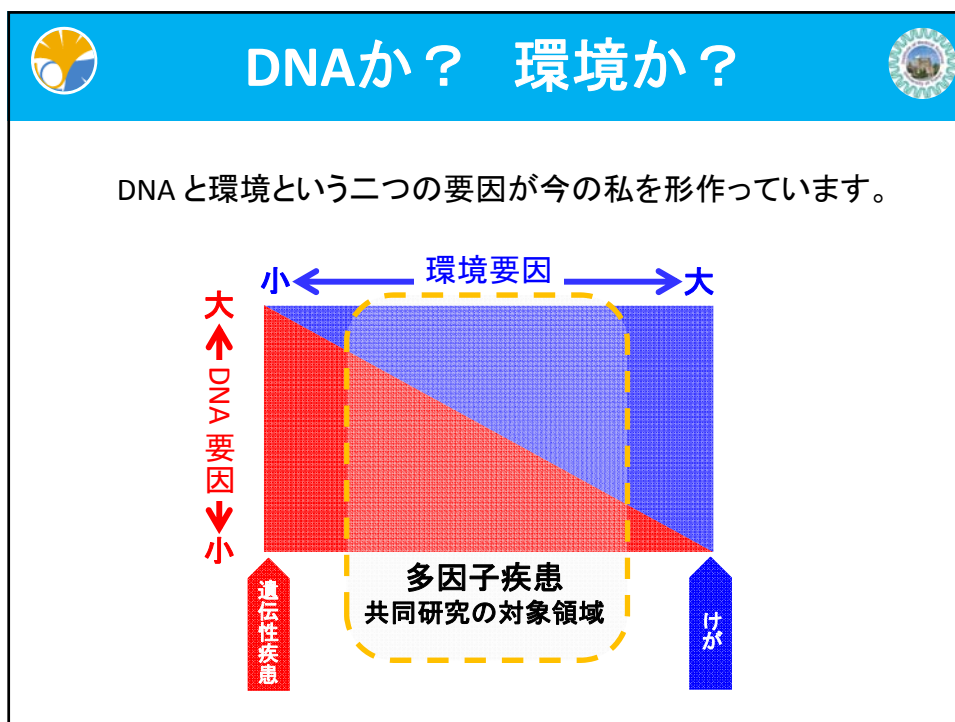





ヘルスビッグデータを用いた健康長寿イノベーション

東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター
DNA情報解析分野 教授
宮野 悟





自分を理解する新たな方法の登場

- 技術の進歩により、誰もが自分のDNA情報を
知り、利用できる時代が始まりました。
- 人はみな少しずつ異なった DNA 情報を持っ
ています。
- DNA情報は、その人と同じ「尊厳」を有します。



共同研究の内容



1. 日本人DNAデータを用いた日本人のための疾病リスク予測モデルの研究
2. DNAの一部を調べる消費者直販型(DTC)のサービスによる消費者の健康に関する行動変容の解析
3. ヘルスビッグデータ社会実装にあたってのELSI面での課題抽出と対処法の研究



共同研究成果の社会実装



- 下記の課題と ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) の研究成果、
- 並びに、常に最新の学術的基盤に基づいた

規範的な一般人向け遺伝子検査サービスの構築を目指す

特に重要な3つの課題

- ① 検査の質をいかに担保するか(分析の質の担保)
- ② 科学的根拠をどう担保するか(科学的根拠)
- ③ 情報提供をどう適切に行うか(情報提供の方法)

遺伝子検査ビジネスに関する調査(経産省)
平成26年4月28日公表

